

10.ムガル帝国

- ◆全般；16世紀初め、アフガニスタンから侵攻したバーブルが北インドに建国したイスラーム国家。17世紀後半のアウラングゼーブ帝時代に最も栄え、ほぼインド全域を支配した。1875年のインド大反乱が起こり、翌年滅亡した。
- ◆帝国の最盛期；第3代アクバルは、新たに都をアグラに建設し、安定した支配を実現した。
続くジャハングール、シャー・ジャハーンの17世紀前半までが全盛期。
- ◆文化；ムガル帝国における文化で特筆すべき点は、建築、絵画、詩文
- ◆建築；各地でイスラーム建築が建設された。飛躍的な発展を遂げたのは、アクバルの時代で、フマーユーン廟の建設は北インドにおける中央集権国家の確立を示している。シャー・ジャハーンは白大理石を好み、赤い城も残しているが、タージ・マハルが名高い。

ムガル第2皇帝 フマール廟



フマール廟；
王妃が帝のために精魂を
傾け、9年もかけて建てた
霊廟。

赤砂岩で縁取りした建物
の上には、高さ38mの
白大理石造りのドームが
そびえる。
ムガル建築のさきがけの
傑作で、約100年後の
タージ・マハルの
原型となった美しい廟

デリー 世界遺産

大楼門 入口側



高サ30m



タージ・マハル
ムガル帝国第5代皇帝
シャー・ジャハーンが
最愛の王妃ムムターズ・
マハルの36歳という早す
ぎる死を悼んで22年かけ
て建造、高さは約70m。

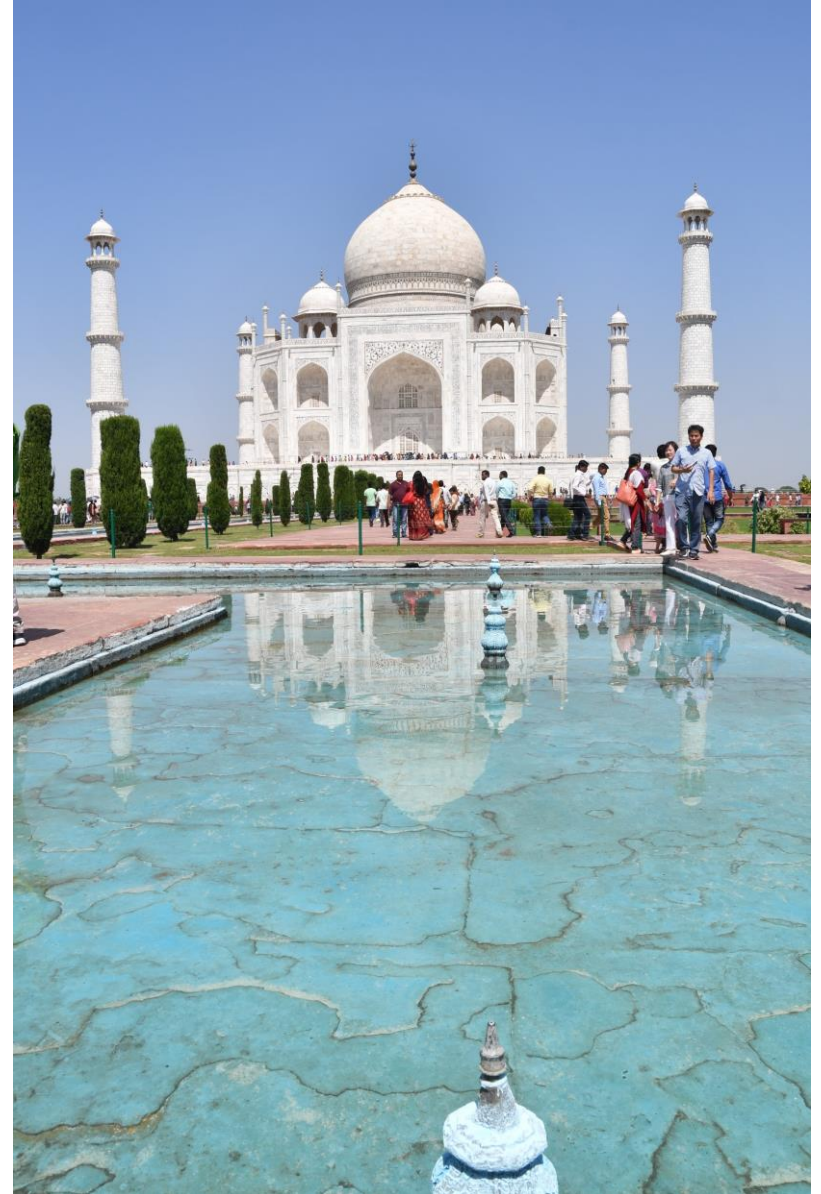
ペルシャ・イスラム洋式
にインド様式を加えた
白大理石の霊廟。

シャー・ジャハーンは
墓室で王妃とともに
埋葬されている。

世界遺産



▲大理石象嵌細工、周りには装飾されたコーラン



大樓門 庭園

